

第4回 能登地区 神経・筋難病ネットワーク地域連携の会報告

医療社会事業専門員 近藤 洋平

平成30年6月9日(土) 能登空港 生涯学習センター会議室にて、「第4回能登地区神経・筋難病ネットワーク地域連携の会」が開催され75名の方にご参加いただきました。

当会は2016年7月より、能登中部の恵寿総合病院、公立能登総合病院、七尾病院それぞれの神経内科が主体となり実施しているもので、医師、歯科医師、看護師、介護士、ヘルパー、リハビリスタッフ、薬剤師、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーなどの多職種を対象とし、神経筋難病患者の医療・介護の向上のためのネットワークをつくる目的で開催されているものです。

一般演題1は「神経筋難病患者の外出支援について」と題して当院医療社会事業専門員の上田竜也が行いました。長期入院されている方の事例を元に外出支援のポイントについて話がありました。本人・家族の希望の確認や家族のサポートに関して(どこまで家族が支援できるのかの確認や見極め)確認が必要なことや、外出時に必要な医療機器の準備や医療ケアや介助の手技練習などがポイントとして挙げられていました。他にも安心して外出ができるように社会資源と結び付けることや外出に関して関係者が同じ思いを共有していくことが重要という話がありました。

引き続き一般演題2では「みんなもできる!!呼吸リハビリテーション」と題して当院リハビリテーション科副理学療法士長の楠川敏章と理学療法士の清水悠輝が行いました。神経・筋難病の呼吸障害の特徴について触れながら、実際にレクチャーを踏まえて会場の全員でリハビリテーションの実践をしました。どれも短時間で動作も容易なものが多く、手軽にできる呼吸器リハビリテーションであり会場全体がにぎやかで楽しい雰囲気となりました。

最後はレクチャーとして当院副院長横地英博医師より「パーキンソン病について」と題し、パーキンソン病の症状や診断に関すること、投薬内容やリハビリテーションの方法に関して話がありました。日本には約20万人のパーキンソン病患者がいることや、パーキンソン病と認知症との関連性が高いとの話もありました。

講演会終了後のアンケートでは、「要点が明確で多職種対象の研修としてよかった」「また参加させていただきたい」など多数好評のお声をいただきました。第5回は今年度中に開催予定です。今後も神経筋難病の方を支援する皆様のお役に立てるような情報を発信していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



呼吸器リハビリテーションについて指導を行う会場の様子